
擬態色

嘩月 - ka「d/z」uki -

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

擬態色

【コード】

N3004N

【作者名】

嘩月・k a r d / z r u k i

【あらすじ】

.....

黄と黒の縞模様、警告。

毒づいて、痺れてって、殺してしまうかも。

同種しか近付けないで。

結局は誰の為の警告なのかは知ってる。

無毒な虚勢は、喰われる事からの進化。

全ては在る為に。

恥ずかしいね。

大人な孤独のフリして、誰彼に甘えている。

真似ているそれは、関係が劣化して退化したもの。

将来は根暗な歯車になって、支えて生きる人になりたいの？

暗黒の傷模様、化膿。

噛り付かれ、消えてって、殺されていくかも。

恐くなって遠ざけた。

痛みに耐え切れなくなって溶け込んでいった。

違う色の者は、少しずつ無惨に散る。

瞳は無感情で。

下らないね。

抵抗する事忘れて、世界に依存している。

黄を塗ったそれは、恐怖が激化して無抵抗のまま。

未来では同じ時を繰り返して、螺旋を創る人になりたいの？

息を潜めて、生きを殺した。
地面全てが陰って見えて、見上げる気も無くす。
黄と黒の警告色、褪せず。

空、綺麗だね。

これまでが嘘のようで、羽ばたいていけそう。
勿論落下し、高所恐怖症で現実を見る。

頑丈に張り付いた色は笑って、
遅すぎると浸食していき、自心へと成り代わっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3004n/>

擬態色

2010年10月21日21時36分発行